

(別紙) 「第2回加東市消防団のあり方検討委員会」会議の経過

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 消防団勧誘DVDの鑑賞
- 4 議事

消防団の周知、啓蒙啓発及び団員確保対策並びに平日昼間の消防活動確保対策について

発言者	説明内容・発言内容等
議長	今回は個別に議題を進めていきたい。忌憚のない意見を伺いたい。
事務局	まず、消防団勧誘DVDの視聴を行う。約4分間。
議長	広い視野での意見を聞きたいと思い、議論に入る前にDVDを視聴してもらった。視聴した率直な感想を伺いたい。
委員	他市町村には若い女性の団員もいるという事に驚いた。趣味等の活動の一環として集まっている所も見受けられたので、そういう事も含めて今後のあり方を考えていくのも必要だと思った。
議長	若手団員から見た感想を伺いたい。
委員	素晴らしいと思った。私自身、身内などから入団を強いられた経緯があり、やりがいを見つけるために入団をした訳ではなかったが、DVDを視聴し消防団は「いいことをしているんだ」と改めて感じた。
議長	次に別の若手団員からの感想を伺いたい。
委員	DVDの中で「実際に現場で何も出来なかった」とあったが、私自身も過去に地元で災害対応活動に直面した際、「地元のどこに何があるか」「現場での連携の取り方」など団員同士で共有し理解しておかないと、いざという時に適切な活動が行えないと感じた。
議長	DVD視聴の意見聴取は以上とする。 続いて、前回開催から3か月経過しているため、前回委員会時の概要を事務局より報告の上、今回の議題に移る。
事務局	前回(第1回委員会)の概要の説明。 続いて、本日の議事を次第に沿って説明。
議長	まず、啓蒙・啓発のテーマから議論に入る。既に様々な取り組みを行っているようだが、膨大な資料やグッズ、展示物で心を掴むのは難しいのではないかと思う。このため、今回はDVDを視聴してもらった訳だが、発信するプラスイメージとして女性目線からの意見を伺いたい。

委員	DVD を見た事で女性消防団がいる事を初めて知った。
議長	企業経営者からの観点で意見を伺いたい。
委員	興味を引くようなインパクトのある表現方法で啓発することが重要ではないか。
議長	今の意見を踏まえ、現状を把握している立場での意見を伺いたい。
委員	このDVDを見てもらえれば「消防団はこんな活動をしている。消防団は素晴らしいんだ。」と言うプラスイメージが伝わり易いと思った。 現状は、災害が発生した直後なら注目され、相手の心に響きやすいが、関心を持たれていない状況での勧誘活動は難しいのではないかと思う。「いかに興味を持ってもらうか。」が最大の課題だと思う。
議長	あのDVDを見て率直な意見を伺いたい。
委員	現場はもっと泥臭くて大変なのに、外からは良い印象に見てもらえない。悪いイメージばかりが独り歩きして本来の活動が表に出ていない事が残念。
議長	消防関係機関で勤務をされた委員に、今だから話せる事などあれば意見を伺いたい。
委員	消防関係機関としても、消防団からの意見等を聞き把握はしているが、現状を打開出来る次のステップに進む事が難しい。入団者や年齢の問題もあるが、災害などから加東市を守っていくのは消防団の役割だと思っている。そのためには、地域からの人員募集だけにとらわれず、企業などにも依頼していく必要があるのではないのか。
議長	PRだけでなく、現状よりワンステップ上がれる環境整備に具体的に提案が出来なければ過去と同じ様に流れる可能性が高いと前回の検討委員会で意見が出た。 重要な意見なので、環境整備についてはPR議題終了後に改めて議論を進めたい。うまくPRが出来ていない訳だが、今行っているPR方法が加東市の現状にミスマッチしているのではないかと思うが、意見を伺いたい。
委員	地域住民に消防団の活動内容が認識されていない事が1番の原因ではないかと思う。
議長	PRの手段として紙媒体や映像などを活用することがイメージし易いが、地域住民と消防団が接触しコミュニケーションを図りながら、消防団の活動を理解してもらうという分野が提言された。その他に、「消防団とはこういうものだ！」などの意見があれば発言願う。
委員	今までは消防団も地域密着型で地域の文化の中で活動していたが、都市化が進んだ影響で消防団に入らなくても生活が出来るとか、隣人を知らなくても生活が出来た状態になってしまった。結果、地域の中に消防団が密着する機会もなく、

	「消防署」と「消防団」との区別すらつかない市民が増えている。様々な理由により規制ばかりが掛かり消防団の誇りがもてなくなっている。
議長	地域の中からフォローアップできるような手段やPR方法など意見を伺いたい。
委員	<p>地域との交流は、壮年と若年とでは差が出ると思うし、時代の流れでもある。本来、啓蒙啓発とはDVDのようにいい事ばかりを並べても意味がない。現状が把握出来ていないと、本当の意味での啓発にはならない。例えば家庭内においても家族に団員経験があれば活動内容が見えるので、その子供も入団し易いが、そういう環境が無いと入団に足が遠のく。</p> <p>災害などで指令が出た場合、地区の役員は使命として活動に向かうが、それが「押し付け」になると若年団員には苦痛になるのではないのか。</p>
議長	<p>色々な発信の手法があるが、今の意見はいい事ばかりではなく、現状を踏まえた上で日々の積み重ねをしていく事の必要性を述べられたと思う。消防団の現状が使命に見合うものかと問われると非常に難しいところもある。危険性が高い活動も多い為、現在全国で年間約1300人の負傷者、死者も2～3人出ており、東日本大震災では254人の尊い命が失われた。こういう重い面も持ち合わせているのにもかかわらず、活動がいいように捉えられてないところがある。また、そこまで危険な思いをしてまで活動は出来ないという思いもあり、入団率が右肩下がりとなっているようにも思う。しかし、DVDの中にもあったように、先に述べたような事があったとしても、その活動に関わった事で自分の人生が豊かになった経験などを発信する方法もある。</p> <p>さて、地域としてのバックアップ方法、又は消防団の地域密着性など現状を聞きたい。</p>
委員	<p>消防団への入団は暗黙の了解もあり「入団できる年齢を迎えた時に入団するもの。誰かが抜ければ新しく入る。それを繰り返し続けるもの。」と、声掛けがなくともその年齢が近づくと自分は消防団に入団していたので、わざわざ「勧誘活動」を行う必要がなかった。しかし、現在は消防団に入団する年齢を迎えても、仕事の都合や、消防団の活動内容や状況などが上手く伝わっていない事もあり、入団しない若者も多い。地区を代表する私の立場からも入団できる年齢を迎える青年に「声掛け」を行っているが、強制は出来ないので「検討してほしい」程度でとどめている。</p>
議長	まだ発言のない委員にも意見を伺いたい。
委員	<p>DVD鑑賞した感想は、きれい事を並べているように目に映った。また、先に述べたように住民のみなさんには「消防団」と「消防署」の違いが分かっていない様に思う。消防団の活動内容は団に入団していないと分かりづらい。また、災害対応の際は消防団の活動が認識されていないため、活動を行っているのが消防署と自衛隊のみと思われているため、実質は消防団が地域の区長や役員と連携を取</p>

	<p>りながら活動を行っているのに認識不足な面が多々みられる。消防団の対象となる若者の家族が消防団の活動内容を正しく認識していないので、若者にも伝わらない。これが現状ではないかと思う。</p> <p>災害時の報道などで消防団の活動が流れても、市内の消防団の活動も同じであるという認識がされていないため活動内容が伝わらない。先に鑑賞した DVD を消防団員の入団年齢を満たしている若者がいる母親に是非とも見てもらい、消防団員の活動内容や、地域の消防団の必要性などを改めて認識してもらいたい。</p> <p>また、何故地域に消防団が必要かは実際消防団に入団して活動しないとわからない。学校等にもパンフレットを置き、DVD 鑑賞などにより勧誘活動を行わなければ、市民の消防団の認識と現状の一致はされないと思う。</p>
議長	<p>勧誘活動は子供の頃から行う必要があるということですね。DVD の内容はきれいな部分と、事過ぎていて見にくい部分があり、この内容で勧誘活動に使用するのはどうかという意見であるが、本日視聴してもらった 4 分の短編 DVD は団員の意見をピックアップしてまとめられているが、原版である 17 分の DVD は、地域住民や自治会長が消防団の必要性などを述べているシーンもある。</p>
委員	<p>息子は消防団に入団している。何をしているのか見に行く訳ではないが、たまに操法の練習風景を見に行く事があった。操法大会は一般の人が見るスペースがないため、見ていいのかわからなくて見学を断念したことがある。過去どうだったのかわからないが、一般の人の見学場所などを設けてもらえると消防団の活動を知ることができるのでありがたい。</p> <p>また、保育園児などを園毎に招待して、親子で見学にきてもらうのはどうですか。</p>
議長	<p>このことについて事務局より意見を伺いたい。</p>
事務局	<p>今年の操法大会から一般観覧席を設けていたが、あまり周知が出来ていなかったため利用者が少なかった。</p> <p>また、園児等を招待する事例は過去にもなく、そういう発想がなかった。</p>
議長	<p>招待するという案は素晴らしいと思う。過去に消防団で似たような案件はなかったのか。</p>
委員	<p>過去に 1 度だが、加西市の消防団が小学校の運動会で校区毎の分団に分かれ、操法を行った事がある。</p>
委員	<p>加東市も旧町時代に小学校で操法大会を行っていた。但し、いつまで行われていたのかは不明。</p>
委員	<p>操法大会を観覧してもらえば動きもキビキビしていて規律正しい演技を見てもらう事を知ってもらい良い機会になると思う。</p>
議長	<p>先の様々な提案を踏まえて若手の意見も伺いたい。</p>
委員	<p>どう PR したらいいのかわからないが、今の若者が紙媒体での PR で果たして消防団に入団したいと思うのか。多少強制力を持たせてでも入団してもらい、活動を行</p>

	<p>う中で「やり甲斐」を見出してもらうことの方が重要ではないのか。現に自分も強制的で入団したが、団活動を行ってみて「やり甲斐」や「自分が住んでいる地域は自分が守る」などの使命感を感じることが出来た。紙媒体や映像媒体だけで入団したいと思う若者がいるかは疑問である。</p>
議長	<p>少しきれい事かもしれないが、今回の様な DVD を観てもらったら「自分達の活動はこんなことに繋がっている」と誇りを持ってもらえたりしないものか。逆に「こんな格好ばかりの見せ方をしても意味がない」となってしまうのか。</p>
委員	<p>DVD は隊員が見れば「素晴らしい活動を行っている」「誇りに思える」と感じられるが、入団していない人達が見たら内容が重くて「自分では無理だ」と感じてしまうのではないかと思う。</p>
議長	<p>やはり、幼少期から団活動について知ってもらい馴染んでもらう事が大切と思う。知ってもらうためのツールは色々あると思われるので、否定的でなく肯定的な内容で議論を進めていきたいと思う。</p>
委員	<p>私の分団では祭りなどの地域行事にも参加しているが、これも自分の分団では大切な消防団活動だと思い参加している。先の意見にもあったが、自分も幼少期から父親が団活動に参加していたのを見てきて、自然と「いずれは自分も」と思った。このため、幼少期から団活動に馴染んでおくことは重要だと思う。</p>
議長	<p>分団に加入しにくい理由の一つとして調査データをみると、勤務先など企業の協力や理解を得るのが難しいという意見の占める割合が大きかったように思う。その事について企業側からの見解を聞かせてもらいたい。</p>
委員	<p>自社ではそういった経験がないため回答できない。個人的な意見として消防団に対しての先入観があまり良くないように思う。実際は規律正しく訓練などを行っていても、バーベキューと飲酒等を行っている事等を見られ、良い印象を持ってもらえない事も事実である。良くないイメージの払拭をする必要があると思う。</p>
委員	<p>先ほど議長が提示していた企業の件は、地元企業は事務局から団員の非常時活動参加への協力依頼文を出しているのである程度浸透していると思う。しかし、近年の団員は他市町へ勤務している者が多く、全ての企業が協力的とは言えない。</p> <p>消防団を常備消防と同じに考えるのは無理だが、自分が所属している分団は、将来自治会の幹部を担う住民とし団員を育成するとなれば、強制的ではなく、普段仕事に行っている若者に「仕事のない日でもいいから」とか「土日だけでもいいから」と相手の生活スタイルに沿う形での声掛けをする勧誘方法に変わっていつている。操法大会の練習時間も、勤務時間を考慮した時間帯にずらすなど、受け入れる環境づくりを行っている。企業どうこうではなく、地域住民の意識を変えていく事の方が重要だと思う。</p>
委員	<p>住民側からの意見とすれば、訓練や活動もこちら側に見えるスタイルに変えていく必要もあるのではないか。</p>

議長	消防団未入団者としての意見を伺いたい。
委員	<p>第1回目の検討委員会後消防団に興味を湧き、職場にいる現役消防団員に色々現状を尋ねた。団として実際に飲み会を行う事はあるが、これは普段の活動の慰労的意味合いのものでやるべき事を行った上でのことであると自信を持って述べていた。それを聞いた際に、自分が同じ事が出来るのかと置き換えたが正直無理だなと思ったし、尊敬できるなと思った。しかし、入団したいと思うかと問われるとそういう気持ちにはなれなかった。</p> <p>話を聞いていると、ことある毎に「しんどい。大変。」というマイナス言葉が多々出てきた。どんな事でもそうだが、マイナス言葉を聞いてやる気になる人はいない。素晴らしい事をしていても、最終的にマイナス言葉で素晴らしさが半減する。大変なのは重々承知だが、せっかくならマイナス言葉だけでなく前向きな言葉を用いて伝えていかないと、魅力を感じて入団したいと思える気持ちは湧かないと思う。</p>
議長	しんどさを通り越して得られるものを、言葉だけでなく自分の生き様で語れるような姿を見せていかないと、相手の心に響かないのではないかと思う。先の意見を踏まえた上で、団員としての意見を伺いたい。
委員	<p>実際のところは正直「しんどい」と思う。しかし、その「しんどい」という言葉が出るかどうかは先輩の指導方法も関係しているのではないかと思う。昔は先輩からマンツーマンで指導を受けて、消防団の意義などを学べていたため「しんどい」という気持ちよりも「誇り」という想いが勝っていた。しかし、今の団員は「自分は何のために消防団に在籍しているのか。消防団とは何なのか。」という大事な部分がわからないまま入団し、退団していく。昔は実際の活動時や集まりがある度に、先輩から後輩へ消防団のあり方・意義なども教えてもらい活動内容と共に「誇り」も継承されていたし、各分団で教育が行届いていたと思う。今後は団員の教育についても考えていく必要があると思う。消防団の活動に対しての対価は「誇り」以外ないと思う。</p>
議長	難しい内容かと思うが、これからの消防団の発展には大事なことだと思う。
議長	女性消防団についてどう思うか意見を伺いたい。
委員	<p>過去に女性消防隊で操法大会に出場した経験がある。大会出場時に他府県の女性消防団員の様々な活動内容などを聞く機会があった。この地区は漁業が盛んで男性は漁師が多く昼間は殆どいない。このため火災が起きると女性が消防団として地域を守っているそうだった。話を聞いて「凄い」と思ったが私に出来る自信はなかった。</p> <p>操法大会出場の話をもらった時、操法大会の事も演技内容も全く分からず一から教わったが、体験してみてすごく楽しいと思った。チャンスがあればまたやってみたいと思った。</p> <p>女性が集まる場所は活気づいているので、そういう場も活用してみてもどうか。実際に消防活動まで出来るかと問われると自信がないが、AEDの使用方法的指導など身近な所から取り入れていけば自信もつくし、地域の防災活動に役立てるようになって</p>

	ていくのではないか。
議長	<p>女性団員は家事とのバランスが出来るかなどの心配があると思うので、1年間のお試し期間を設ける事で「これくらいのことなら自分でも出来るのでは」と判断する基準にもなるのでは。また、AED など普段の生活で知っておくと役に立つ事なども学べるのはメリットが大きいと思う。</p> <p>では次に、若手消防団員の目線での消防団活動でのメリットは何か。</p>
委員	<p>地元の同世代の人たちと交流が持てたり、意見交換が出来たりすることが最大のメリットではないかと思う。</p>
議長	<p>今までの議論をもとにした感想、また今後活かせるような案があれば意見を伺いたい。</p>
委員	<p>経験をしてみないと分からない事もあると思うので、1年間の体験入団制度を設けてみてはどうか。</p>
委員	<p>新入団の勧誘は、もともとは小さい部落は両親や地域の人から入団を勧められ入団し、大きい部落は人数が多いため、ある年代になれば何人かいる中から数名が入団するといった現状であった。</p> <p>火事の時に住民から、「消防署があるのになぜ消防団が居るのか？」と言われることがある。なかなか消防団の認識が低いのが現状で、勧誘に行っても両親が消防団の事を知っていても「うちの子は消防団に向かないから」と断られる事も多くなってきた。消防団のPRをもっとしていかなければいけないと思う。</p> <p>私自身も団の退団後ブランクがあったが、色々事情があり仕方なく再入団する事になった。様々な思いがあるが、活動をしていく中で地域との関わりなど通して「使命感」を感じるようになり続ける事が出来たと思う。</p> <p>入ってみて初めて分かる事が沢山あると思うので、「体験入団」はすごくいい案だと思う。イメージだけで入団を拒まれるより、体験した上で自分に合わない判断すれば続ける必要もないし、「これだったら自分も地域のために貢献できる。頑張ろう」と思えるのであれば、その時の志で続けていけば良いと思う。</p> <p>現在、他市で学生が消防団員を勧誘し、学生が消防団に入団するという方法をとっている地域もある。特典として就職活動時に有利になるというメリットをもたせていて団員も増加しているようだ。</p>
委員	<p>息子に入団を勧めたのは私ですが、入団の最終判断を下したのは息子です。入団するまではやっつけていけるか不安だったが、活動をしていく中でやり甲斐を見出したようで頑張っている。操法大会の選手として立派にやっていたし、火災が発生した時に出勤する姿を何度か見送ったこともある。火災からの帰宅後「現場でなにをしているの？」と聞くと、消火活動は消防署員が行うが、鎮火後消防署員がいなくなった後に、しっかり火が消えたかを確認するために最後まで現場にいた。それが自分達の大事な任務だと胸を張って言っていた。</p>

議長	<p>入団する側が敬遠する理由を NHK のアンケート調査結果で「体力に自信がない」「仕事との両立ができそうにない」「危険な活動の印象がある」という結果が出ている。結果を踏まえた上で消防団員に聞き取りを行ったところ、「大きい車の運転に不馴れなため消防自動車の運転トラブルが怖い」「水防活動の危険性」「警ら活動や避難活動の限界や危険性などを教育してもらえかが不安」「消火活動の安全対策」「消防署員と消防団との区別はどうなっているのか」「AT限定の自動車免許しか持っていないが消防車両の運転は可能か」「持病があるので活動に支障をきたしそうで不安」などの声が聞かれた。</p> <p>不安事案はさまざまにひとくくりには出来ないが、「1年間体験入団」で不安事案を体験してもらうなどをして少しでも不安要素が緩和されれば、入団を検討する側も検討しやすくなるのではないのか。</p> <p>迎える側がそういう環境づくりをしていかずに「入ったからには！」といった態度をとってしまっただけでは改革をする意味がない。これらの不安要素に対しての現状や意見があれば伺いたい。</p>
事務局	<p>昨年度の車両更新分からオートマチック車に変更した。また、今年度更新分からバックモニターとドライブレコーダを搭載させるようにするなど、安全性のニーズにも対応している。</p>
委員	<p>消防団員の教育について。現在の団員の中には決まり事やルールがわかっていない人が多い。最初の新入団訓練時に団員教育をもっとしっかりして欲しい。現状では団毎での教育は難しいので一括教育で認識の統一も図ってほしい。</p>
委員	<p>教育訓練が団員の負担になる、という理由で長時間の訓練をすることが出来ない現状がある。結果、敬礼もできない団員が分団長になる事もある。緊急作業車は事故時に1名だと対応できないため2名乗車するように定めている。しかし、いざ火事場に出動した際に定員人数が揃わないからと、消防車両が一台も出動出来ないケースもあり、こちらから指示を出さないと動けず、臨機応変な対応が出来る組織作りをしていく必要がある反面、団員の負担にならない程度に工夫して団員教育の充実も図らなければならない。</p>
議長	<p>理想と現状とのほざまには様々な矛盾点が発生するが、短時間で充実した教育活動を行えるよう紙ベースでもまとめて配布するなど、工夫をしていかないといけないように思う。</p>
議長	<p>貴重な意見交換ができた。別の議題について、例えば人形劇で消防団についての情報を発信してもらったり、イベント時に消防署に来てもらい団活動について色々な形で広めてもらったり、もっと簡易な形では体育祭の中に操法大会を組み込む、またすごろくなどを使って消防団活動を模倣しておこなっているケースもある。</p> <p>以前、ある地区では地域の方が地元の小学校の生徒向けに、「川にどんな魚が住んでいるのか」といった自然学習的な授業が行われていたが、おなじような形で消防団</p>

	OBが行うことは難しいものか。また、団員でそのような活動を行うのは難しいものか。
委員	ツアーを組んで、消防団の活動場所などを親子でめぐるイベントを行ってみてはどうか。例えば、単独の分団だけ、若しくは複数の分団を廻るツアー等で、紙芝居などを盛り込み、お昼を挟んだ場合はお弁当の配布なども行ってみては。
委員	各地区の消防器具庫を巡るツアーを組んで、消防器具庫前で消防団員が何かしらの活動を見せるのはどうか。
議長	一度モデル地区をつくって試してみるのもひとつかと思う。
委員	各地区の消防団員が地元地区の子供達を集めて、訓練内容を見せたり消防庫を見せたりしてコミュニケーションを図るようにすれば、同じ集落の住民として更に親近感がわいていいのではないか。
議長	新しい案を行う事と、消防団員の活動時間との折り合いなどを考えつつ案を進めていければと思う。 次に「消防団 PR の番組作成」について、プロが作成しているものは確かに素晴らしいが、それよりもローカルで身近な動画の方が受け手にとっては消防団をより身近に感じる事ができて良いのではないかと思うが、予算の関係なども踏まえての現状を事務局から説明願う。
事務局	現在制作中の「消防団 PR 番組」は新入団員に入団のきっかけ、今後の意気込みや目標などをインタビュー形式で撮影している。長編ではなく短編に分けてケーブルテレビで放映する予定となっている。放送日は未定。
議長	次の議題へ移る。消防団員の確保対策について。 過去に同じ議題で検討を進めてきたが、着眼点は見いだせても着手までに進まない現状があるが、今回いくつか提言があったので今回はそれでまとめとする。 次に魅力ある消防団を応援する環境づくりについて。事務局より簡潔に説明を願う。
事務局	①市内の事業団体へ従業員の入団を推進してもらえよう依頼していく事。②社会貢献事業所の表彰。消防団活動に理解のある事業所に対して感謝状を進呈したり、広報紙やケーブルテレビなどで事業所のPR活動を行うことで、企業のイメージアップを図っていく。③市独自で、入団10年以上の団員の配偶者への表彰を創設して感謝状をおくる。内助の功への報いや、配偶者からの団へのイメージアップをはかる。④福利厚生について企業に協力をお願いし、消防団員だから受けられる特典やサービスなどを増やし、団員である事のメリットを増やして勧誘へつなげていく。⑤女性消防団員の勧誘。男性の消防団員と同様の活動は難しいかもしれないので、後方活動などに協力してもらい、新入団員確保へつなげる。⑥学生への入団勧誘。特に市内在学中の大学生や専門学生に入団勧誘を行う。⑦加東市への転入者への勧誘促進。転入時にリーフレットなどを使用し消防団について説明を行う。

議長	この提言に対しての意見を伺いたい。
委員	加東市在中の社員が少ないのが現状。他市町からの通勤者に入団を勧めるのは難しいのではないのか。
委員	市役所や県の職員に率先して入団してもらうのはどうか。
事務局	市内在住の市役所職員の殆どは入団しているが、未入団の者については勧誘活動を始めており、今後も引き続き行っていく予定である。消防団に加入している職員は業務中でも火災発生時などには率先して出動している。
委員	消防団員の家族への感謝状については、表彰状より金一封の方がありがたい。
委員	加西市では以前から10年以上の家族表彰をおこなっている。賞状と共に普段使えるグッズももらえた。
議長	時間となったので本日はここで締切り次回へ見送る。
事務局	事務局からの提言の中で中途半端な区切りとなったが、以降は次回開催時に再度議論することとする。 次回開催は9月頃予定。調整、決定次第追って連絡する。以上。

5 閉会